

教育目標:	○思いやりのある子	○すすんで学ぶ子	○力を合わせる子	○元気な子
目指す学校像:	○確かに学ぶ学校 ○安全・安心な学校 ○未来を創る学校 ○信頼される学校			
目指す児童・生徒像:	○主体的に学び、自らの力を高め伸す子 ○自他を大切にし、心豊かに他者と協働する子 ○心身ともに健康に生活する子			
目指す教師像:	○学校の役割を十分に理解し、信頼される学校づくりに貢献する教職員 ○心身ともに健康な教職員			

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	分析コメント				改善策	
				努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)		
確かに学ぶ学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 ◆主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。 ◆カリキュラム・マネジメントを推進するとともに、多様な人々と協働しながら課題解決を図る学習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的知識及び技能を確実に習得させる。 ○個に応じた指導、互いに学び合い、高め合う指導、タブレット型PCの利活用を推進・充実させる。 ○体験的・協働的な学習、探究的な学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」、「分りやすい授業」を推進し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 ・タブレット型パソコンの利活用、ICT機器等を効果的に活用した分りやすい教材の提示により、「分る」ことができる・つながる授業を展開する。外国語、算数習熟度別指導などに応じた丁寧な指導を行う。 ・「習得・探究・活用」「問題解決」の学習過程を取り入れた授業、生活科や総合的な学習の時間を中心とした人的・物的資源を生かした協働学習を行う。 	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の肯定的評価が94%である。 ○朝学習等で取り組んでいる「東京ベーシックドリル」、「読書」に加え、復習を中心とした家庭学習の充実に取り組んだことが評価につながっている。2～6学年で1学期ごとに「東京ベーシックドリル」の確認テストを実施し、定着度を確かめて授業改善や補習に生かしている。 ○保護者の肯定的評価が80%である。否定的評価が11%で全項目中一番高い割合となった。 ○教育の情報化については、多くの意見があった。1・2年生は生活科を中心に、3年生以上は総合的な学習の時間を中心に授業で利活用を図った。各教科の授業で教材やノートを提示する等、視覚化し、分りやすい授業の工夫を行った。 ○保護者の肯定的評価が80%である。 ○感染防止対策でグループ学習や自由な交流が制限される中、各教科・領域でワークシートを工夫したり黒板に児童の意見を記録したりするなど、互いに学び合い、高め合うよう授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を明確にした計画的な授業、事後評価を生かした授業改善を行い、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。 ○発達の段階に合わせ、宿題は、ドリル的なものだけでなく、課題を自ら設定して取り組むなど、「探究的な学び」や「自ら学ぶ習慣」が身に付くよう工夫する。 ○ICT機器の活用や、外国語の専科授業、算数の習熟度別指導等を通して、子供たちが「わかった」「できた」を実感できる授業改善を進めている。 ○タブレット端末の運用方法等については、保護者と情報共有し、より良い利活用を進める。 ○児童が自らすすんで考え、課題を解決していく場面や話し合ったり伝え合ったりする場面に計画的に設定し、深い学びを充実させていく。 ○思考力・判断力・表現力を高めるために、児童が考える時間の確保や、話し合うことを大切に授業を行っていく。
				4	4	4	4		
				4	4	3	4		
安全・安心な生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ◆規範意識の醸成と他者を大切にすることを言葉や態度(挨拶・礼儀)で表すことができるようになる。 ◆いじめや差別、体罰を絶対に許さないなど、全教育活動を通じた人権を尊重した教育活動を推進する。 ◆安全教育の推進に取り組む。 ◆教材・教具、校内環境の美化・整備を適切に行い、教育環境を安全に整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣や集団生活をする上でのルールの徹底を図る。 ○自他の心身を大切にするための判断力・行動力を身に付けさせる。 ○いじめ防止・不登校対策の充実と徹底を図る。 ○保護者や地域、関係機関と連携した安全教育的取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「十小のきまり」「10の約束」の指導の徹底を家庭と連携して行う。 ・挨拶や相手を大切にすることを身に付けさせる。 ・組織的にいじめ防止に取り組む。毎月、笑顔チェックカードにより児童の様子を把握し、SOSを発見、早期対応により細心の注意を払う。 ・「ふわふわ言葉」を推進し、暴力や暴言を許さない。体罰防止に努める。 ・様々な場面において、「想像する」「行動する」の習慣化を図り、思いやる心や危険を予測し回避する力を養う。また、家庭・地域と連携した安全教育に取り組む。 ・学校環境を安全に整え、安全指導や避難訓練の充実を図る。 	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の肯定的評価が87%である。 ○落ち着いた学習に取り組むこと、安全に学校生活を送ること、社会の一員として身に付けるべき力を「十小のきまり」「10のやくそく」に、これらをもとに、週1回教職員で児童の様子や課題を出し合い、指導の徹底、一貫性を図った。 ○高学年を中心に、互いに挨拶をする習慣が定着しているなど、挨拶の励行が進んだ。 ○保護者の肯定的評価が84%である。 ○3年3回生のいじめアンケートや毎月実施した「笑顔チェックカード」などを活用し、いじめの早期発見、早期対応に取り組んだ。 ○スクールカウンセラーによる5年生の個別全員面接を実施し、児童の相談体制を整えた。 ○保護者の肯定的評価が93%である。 ○実効性のある避難訓練と安全指導を計画的に実施することで、「危険を予測し、自ら回避できる力」の育成を図った。 ○「元気チェックカード」を活用した児童の健康管理を行い、児童自身が自分の健康や体調に関心をもちたせるとともに家庭との連携を図ることができた。 ○保護者の肯定的評価が76%である。「わからない」と回答した割合が17%と最も高い割合を目指していく。 ○1～3年生の各学級で多様性についての理解教育を巡回指導教員とともに実施した。 ○4月の保護者会・全体会で、特別支援教室に利用について説明する時間を設けたり、教員の研修を実施したりするなど、特別支援教育や多様性への理解を深めるための取組を充実させた。 ○保護者の肯定的評価が88%である。 ○保護者との連携を深めるため、学校がどのような視点でキャリア教育を推進し、実践しているかについて学校だよりやブログなどを通して周知した。 ○キャリア・パスポートの取組を中心とし、児童が自分のよさを考えたり、生き方を振り返ったりする態度の育成を図った。 ○保護者の肯定的評価が91%である。 ○体育科授業では運動を精選し、児童が楽しく体を動かす機会を確保した。身体接触を避けたり固定道具が使えなかったりしたため、休み時間は、児童が外遊びを存分に楽しむことができなかった。 ○ブログによる給食メニューの紹介や食育に関する記事の掲載、児童による「給食委員会の活動等」、食育の啓発を図った。 	
				4	4	4	4		
				4	4	4	4		
未来を創る豊かな心・たくましい体	<ul style="list-style-type: none"> ◆困難なことにも立ち向かい、様々な人と協働し、課題を解決していくことができるたくましい心身を育成する。 ◆自分のよさや可能性を伸ばし、生き方について考えを深めたり、自分の夢や希望を大切にしたりすることができるようキャリア教育を推進する。 ◆家庭との連携を図り、生涯にわたって運動に親しみ、健康な体を維持していくこととする態度を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育や多様性・人権教育の学習を充実させる。 ○キャリア教育の推進し、自分のよさ・生き方について考える機会を設けたり、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせる。 ○音楽・造形活動を通し、豊かな情懷を養う。 ○「体力の向上」「食」の大切さを理解し、健康な生活を送ることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや特別支援教室の巡回指導教員等と連携し、発達障害や多様性への理解を深めたり、道徳教育・人権教育の指導を充実させる。 ・ゲストティーチャーによる授業や自分のよさや協働するよさを感じる授業を充実させ、キャリア教育を推進する。 ・音楽や発表など表現する機会を積極的に設けるとともに、学級活動、委員会活動を充実させ、児童の自主的な活動を推進する。 ・コアディネーショントレーニング拠点校としての活動や「楽しみながら運動に親しみ機会」の日常化に取り組む。また、元気チェックカードの活用や栄養士と連携した食育を充実させ、健康な心身を培っていくこととする意識を高める。 	4	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の肯定的評価が76%である。「わからない」と回答した割合が17%と最も高い割合を目指していく。 ○1～3年生の各学級で多様性についての理解教育を巡回指導教員とともに実施した。 ○4月の保護者会・全体会で、特別支援教室に利用について説明する時間を設けたり、教員の研修を実施したりするなど、特別支援教育や多様性への理解を深めるための取組を充実させた。 ○保護者の肯定的評価が88%である。 ○保護者との連携を深めるため、学校がどのような視点でキャリア教育を推進し、実践しているかについて学校だよりやブログなどを通して周知した。 ○キャリア・パスポートの取組を中心とし、児童が自分のよさを考えたり、生き方を振り返ったりする態度の育成を図った。 ○保護者の肯定的評価が91%である。 ○体育科授業では運動を精選し、児童が楽しく体を動かす機会を確保した。身体接触を避けたり固定道具が使えなかったりしたため、休み時間は、児童が外遊びを存分に楽しむことができなかった。 ○ブログによる給食メニューの紹介や食育に関する記事の掲載、児童による「給食委員会の活動等」、食育の啓発を図った。 	
				4	4	3	3		
				4	4	4	4		
家庭・地域とともにある学校	<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者・地域に学校運営について分りやすい情報を発信する。 ◆教育活動の充実・改善のために、内部評価・外部評価を生かす。 ◆保護者や地域の願いを共有し、「開かれた学校づくり」に取り組む。 ◆家庭・地域と連携して教育活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の学校生活や取組の様子がよく分かるよう学校だよりや学校ブログを充実させる。 ○学校運営協議会委員・保護者・教職員・児童を対象とした学校評価を実施し、PDCAサイクルによる改善を図る。 ○保護者・地域と協働し、「チーム十小」として、教育活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページ、学校ブログでは、教育活動の様子を適宜発信する。学校だより、緊急メール等は、情報を分りやすく伝える。 ・学校公開や行事等は、社会の状況に合わせ適切な環境のもと実施する。また、各行事実施後のアンケート結果を発信するとともに、次年度に生かすよう改善策を提示する。 ・教職員は、児童が安心して通学できるよう日常の連絡などを丁寧に行い、保護者とともに児童の成長を支える。 ・「学習ボランティア」として保護者や地域人材の教育活動への参画を進める。 	4	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の肯定的評価が85%である。 ○学校ブログの更新の頻度を高め、学校の取組や児童の様子を保護者に伝えることができた。 ○欠席、遅刻等の連絡ルールとして、Formsを利用したシステムを構築した。 ○一定条件のもと、授業中継の取組を各学級で実施した。 ○保護者が83%の肯定的評価を重視している。 ○児童の表現する力の育成を重視し、1・3・5年生は音楽発表、2・4・6年生は演劇発表を行う形式の学習発表会を行った。 ○各行事や学校評価アンケートで保護者から寄せられた意見や改善要望をまとめ、「アンケート結果」として各家庭に発信した。 ○保護者が82%の肯定的評価をしている。 ○保護者が学校に来る機会を効果的に活用できるよう、昨年度から授業参観と同日に保護者会を設定した。同日に実施する形式が定着し、参加する保護者が増加した。 ○今年度から「十小ボランティア」を発出し、地域・保護者と連携した教育活動を推進することができた。 	
				4	4	4	4		
				4	4	3	4		